

3) 高山帯でのエライオソームの効果は如何に!?



エライオソームはアリのえさとなりうることから、種子散布に効果的であることが知られています。コマクサの種子にもこのエライオソームの付属が見られ、効果的であると考えられています。しかし、高山帯での効果を明らかにした報告などはなく、エライオソーム＝アリ散布という考えだけに頼った考えが一人歩きしているようで高山帯でもその効果が得られているのか確認が必要でしょう。

3 似ているところと似ていないところ (ハクサンコザクラとサクラソウを例に)



花の色や花筒が長い点は共通していて、サクラソウの場合は口吻(こうぶん)の長いトラマルハナバチの女王により花粉の送受粉がなされているといわれています。アゲハチョウ類やビロードツリアブ、クロスキバホウジャクといった長い口吻を持つ昆虫たちも訪れることから、おそらく花粉の送受粉に役立っているものと思われ、ハクサンコザクラにおいても口吻の長い昆虫たちが訪れていて似た送粉システムを持つと考えられます。



一方、根茎はサクラソウが横走根茎(写真上)であるのに対し、ハクサンコザクラは直立根系(写真下)です。また、種子散布の際に蒴果(さくか)が横に裂けるのに対し、ハクサンコザクラは蒴果の上部から中部あたりかけて縦に裂ける点で異なります。種子の形状にもそれぞれの違いが見られます。

プチびっくり!!

1) ヨツバシオカマとエゾシオガマの場合



花の形態から、マルハナバチが訪れるだろうということが想像され、実際の観察でも花にはマルハナバチが訪れます。花にぶら下がって口吻を伸ばす姿からおそらく誰しものが蜜を吸っているように受け止めることなのでしょう。しかし、本当は細かく振動する技で花粉を腹部に落として集粉しているのかもしれませんが(まだ明らかではありません)。



午前 6 時 59 分 → 午前 7 時 28 分 → 午前 7 時 58 分

2) ミヤマクワガタの場合

花は天候また昼夜にかかわらず、ダラダラと咲いていきます。花の寿命も短く、「天気が悪いから明日、写真に収めよう」としたのならば、あ〜らびっくり、花の多くが落下して、見ごろを逸してしまっていることでしょう。

さらに驚くことは、開花前に黄白色を帯びていた葯の色がヒスイ色に変わる現象です。



3) マルハナバチの同定力

私たちの目には同じような花に見えるイワオウギ（写真左）、タイツリオウギ（写真中央）、リシリオウギ、シロウマオウギ（写真右）。でも、マルハナバチは同所的に生えていたとしてもちゃんと見分けて訪花しています。ヒトからすれば、どの花蜜であっても同じように思えますが、それぞれにお好みがあるのでしょうか。

4 おわりに

このお話を聞いて、家の周りの散策や登山の際に新たな視点として取り入れてもらい、「ほー」と感心していただけたのなら幸いです。



絵：金栄 健介



— 創立 1951 年 —

〒398-0002 長野県大町市大町 8056-1
TEL. 0261-22-0211
FAX. 0261-21-2133

山岳博物館



URL: <https://www.omachi-sanpaku.com>
市立大町山岳博物館公式 Web サイトは、
大町山岳博物館友の会の支援により博物館が運用しています。

開館時間

9:00 ~ 17:00 (入館は 16:30 までとなります)

休館日

月曜日、祝日の翌日、年末年始 ※7月・8月は無休

入館料

大人 400 円 高校生 300 円 小・中学生 200 円

(30 名様以上の団体は各 50 円引)

交通

JR 信濃大町駅から

タクシー 5 分

長野自動車道安曇野 IC から 40 分

徒歩 25 分

北陸自動車道糸魚川 IC から 95 分

上信越自動車道長野 IC から 80 分



施設のご案内